

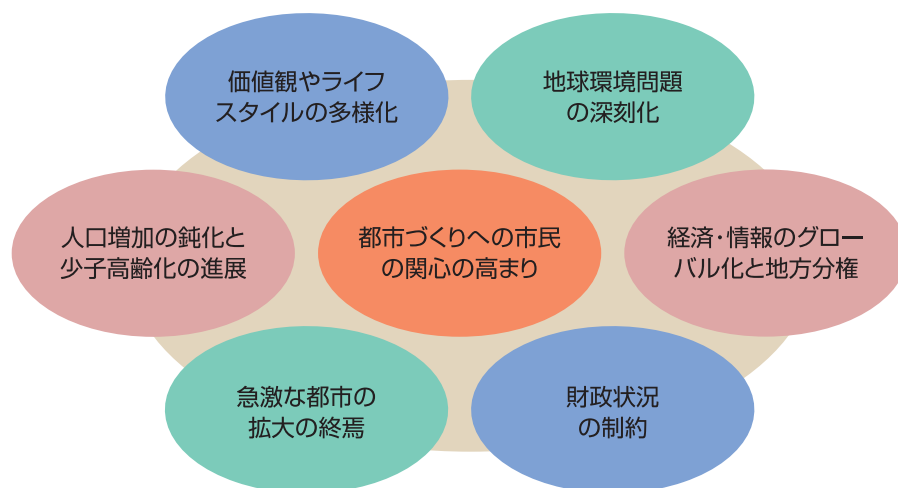
いま、必要なのは都市づくりの質的な転換です。

札幌は開拓期からおよそ130年余の比較的短い期間で人口180万人を超える大都市へと成長しました。開拓当初からの計画的な都市づくりにより、基礎的な都市基盤は全国的に見ても高い水準で確保されています。しかし、今日、都市を取り巻く状況は大きく変化し、拡大期における都市づくりとはまったく対照的ともいえる新たな課題に直面しており、基本方向の質的な転換が求められています。

基盤は整いましたが都市を取り巻く状況が大きく変化しています。

これまでの都市づくりは、人口や産業の急速な集中に対し、これを支える都市基盤を計画的、効率的に整備することが主要な課題でした。しかし、こうした人口や産業の急速な成長という前提そのものが変化し、さらに人々の価値観やライフスタイルの多様化、環境問題、都市づくりへの市民の関心の高まり、財政の制約など都市を取り巻く状況が構造的に変化してきています。

都市を取り巻く7つの構造的変化



現場ではいくつもの新しい課題に直面しています。

都市を取り巻く状況の変化により、具体的な都市づくりの現場では日々新たな課題に直面しています。例えば、商業施設の大規模化や郊外での立地動向の高まりが見られたり、まちなかのマンションが新しい居住形態として定着しつつある一方、建設をめぐる問題が複雑化し、調整が長期化するなど、実にさまざまな課題が生じています。

新たな5つの課題

